

# 月にみがきて



更級小学校だより No. 10  
H25. 1. 18

## 高学年のリードで児童会まつり

12月21日金曜日に全校児童が楽しめる児童会まつりを4年生以上の高学年が各委員会の特色を生かして企画・運営してくれました。4年以上は委員会のコーナーを前半・後半に別れて運営し、そこを縦割り班ごとにウォークラリーの要領でコーナーを回りました。

運営や縦割り班を引率する高学年の姿が素晴らしくその姿を紹介します。

①②写真は始まる前に低学年と相談しているのでしょうか。低学年と何を話しているか分からないけれど関わりが良いですね。③は図書委員会のゲームを誰がするのか決める場面で、高学年がリードして低学年の子もたちの意見を聞いている場面の高学年らしさが素晴らしいですね。④は自分の班がゲームに参加できるか先の様子を確認した目線が高学年リーダーの姿です。⑤⑥は班員がちゃんと並んでいるのかを確認する目線を感じる写真ですね。⑦は高学年女子の多くが低学年と手を繋いで引率してくれていました。⑧は「壁にそって並んで」という声が聞こえてきそうに左手を出す高学年の姿です。⑨⑩はゲームを運営する高学年のしっかり説明する姿です。なんと自主的、実践的な態度が育っている姿でしょう。また、縦割り班で活動に参加することで他学年の仲間と協力しながら楽しく活動する姿が感じられる場面もあります。平成24(2013)年も子どもたちが生き生きと活動できる学校にするため創造し続けたいものです。保護者・地域のみなさん今年もどうぞよろしくお祈りします。



# 経験の積み重ねが学習の骨組みを作っていく

12月末の晴れた朝の1年生、AさんとBさんが霜と遊ぶ、最初は手形を作っていましたが、あごや頬をくつつける姿が印象的です。きっと登校途中も霜にも目がとまり、玄関前の姿となったのではないのでしょうか。この学びの姿が我が家の受験生の姿と重なりました。

我が家では、娘が前線の問題について姉弟で話していました。私は外に出たときに自然の事物に随分関わらせましたが、文化系の娘はそんなことには興味を持つことが少なかったように思います。停滞前線や温暖前線、春一番と高気圧・低気圧と



地学の問題は自然との語らいの結果であります。小学校でも体験が重視された教育課程が実施されています。この学びがどこでどう関わっていくのかは説明を省きますが、経験や体験が生きた学びや生きる力に結びついていきます。社会人になったばかりの頃に、友人とキャンプをしたことがあります。火を熾し焼き肉などのため、薪を探してきて火を大きくしました。途中で薪がたりなくなり、火を熾したことがない都会育ちの友人に薪を探し、火を大きくすることを依頼しました。彼は大きな木を持ってきて、小さくなった炎にその大きな木を加えたので、火が小さくなってしまおうということがありました。彼に「そんなことしたら火が消えてしまう」といったけれど、意味が分からない様子でした。そこで、信州育ちの友が火を大きくしながら、「空気が入るところ確保するために、乾いた細い木からだんだん太い枝や木にしていく」「井形に木を組むなどしていく」などを説明していましたが、火を熾した経験がない人にはすぐには分からないようでした。

このような例が示すように小学校時代の体験や経験が中学高校そして専門学校・大学へと、具体的なことから抽象的な概念へと進んでいきます。その学びの基礎（骨組み）を支えるのが写真の姿にあるような幼い頃の体験や経験に他ならないのです。具体的には今日の風や雨がいつもと違うと感ずることだったり、毎日のお手伝いの中での野菜の姿を知ることだったり等体験や経験であります。子どもたちの日々の経験や体験の積み重ねが学習の骨組みを作っていくのです。くれぐれも子どものできる学びの時に手を出しすぎず、「してみせて 言って聞かせて させてみる」そして「ほめてあげる」を願う場面でもありました。

10月発行「月にみがきて」に掲載した運動会の開会式の「『がんばりましょう』という子どもたちが『はい』と答えた姿や閉会式でも何人かの方のお話にある『ありがとうございました』に対して返事が返ってきた姿」に対して良かったし同感であるとお返事をいただきました。また11月発行の「縄文祭りの子どもの姿・挨拶の姿について」のお便りにもふれて誉めていただきました。お便りに対してご意見・ご感想をお寄せいただくと励みになります。この「月にみがきて」を読んでいただき、ご感想やご質問・ご提案がございましたら次の更級小学校メールアドレスにお寄せください。 [sarashinasho@school.chikuma-ngn.ed.jp](mailto:sarashinasho@school.chikuma-ngn.ed.jp)